

早稲田大学 教育学部 国語 講評

〔総合分析〕

| | |
|------|-----------------|
| 出題形式 | マーク式・記述式併用 |
| 試験時間 | 90分(現代文2問、古漢1問) |
| 難易度 | 昨年並み |

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「写真」について。出典:多木浩二『写真論集成』。

〔本文字数:約3100字=昨年より約600字減少。設問数:9=昨年と同じ。〕

| 小問 | 難易度 | コメント |
|----|-----|--|
| 問一 | やや難 | 【傍線部説明】傍線部直前の指示語に従って、前の3行の内容から判断する。 |
| 問二 | 標準 | 【傍線部説明】傍線部後の同じ段落内の内容から考える。 |
| 問三 | やや易 | 【空欄補充】空欄直前の「だから」という接続語から、前の部分からの因果関係で判断する。 |
| 問四 | やや易 | 【傍線部説明】直前・直後の「観客」との対比から考える。 |
| 問五 | 標準 | 【傍線部説明】傍線部直前の「つまり」という接続語から、前の文脈から判断する。 |
| 問六 | 標準 | 【傍線部説明】傍線部と同じ段落の内容から考える。 |
| 問七 | やや難 | 【空欄補充】各空欄の前後の文脈から判断する。 |
| 問八 | 標準 | 【理由説明】傍線部の直後の一文より明らかだろう。 |
| 問九 | 標準 | 【趣旨合致】消去法でよい。他の選択肢は明らかに誤り。 |

(二) 随筆文。「落語家円朝」について。出典:岡本綺堂『岡本綺堂随筆集』。

〔本文字数:約2800字=昨年より約100字減少。設問数:10=昨年より1問増加。〕

| | | |
|-----|-----|---|
| 問十 | 標準 | 【空欄補充】「長い時間」という意味の語句に関する知識問題。 |
| 問十一 | 易 | 【漢字記述】a・bともに書けなくてはならない字である。 |
| 問十二 | 易 | 【文学史】「言文一致」がヒント。アはその理論書に過ぎない。 |
| 問十三 | やや易 | 【語句の意味】は頻出の重要語であり、は文脈から容易に判断できる。 |
| 問十四 | 易 | 【空欄補充】「cをくくる」で、「見くびる」という意味の慣用表現。 |
| 問十五 | 標準 | 【整序問題】各文の中の指示語や、「紀行文」「心覚え」という同じ表現に着目する。 |
| 問十六 | やや易 | 【心情説明】傍線部直後の一文に新五郎の心情が説明されている。 |
| 問十七 | やや易 | 【傍線部説明】「妙」とは「すばらしくすぐれていること」。傍線部の近くにあるので、見つけるのは難しくはない。 |
| 問十八 | 易 | 【傍線部説明】熟語の語彙力が試されている。 |
| 問十九 | やや易 | 【傍線部説明】最終段落の内容から判断する。エは「必ず出てくる」が不適切。 |

(三) 古文。出典：『道行きぶり』。

(本文字数：約 1350 字 = 昨年より約 450 字増加。設問数：9 = 昨年より 1 問増加。)

| 小問 | 難易度 | コメント |
|--------|-----|---|
| 問二十 | やや難 | 【記述・口語訳】「ところせし」の意味を前後とのつながりから規定する。 |
| 問二十一 | 易 | 【修辞法】「旅」と「度」の掛詞。設問文に掛詞の位置が示されており容易。 |
| 問二十二・B | 標準 | 【文脈把握】和歌の下の句から判断する。 |
| 問二十二・C | やや難 | 【文脈把握】和歌の直前の一文から判断する。アだと誰が帰郷するのかが分からず、不十分。 |
| 問二十三 | 易 | 【文学史】は直前の「在五中将の」、は1行前の「須磨」から判断できる。 |
| 問二十四 | やや難 | 【文脈把握】直後の「神」と対になるものを選ぶ。消去法でも解ける。 |
| 問二十五 | 標準 | 【語の読み】「益荒男」は「ますらお」と読む。「立派な男」の意。 |
| 問二十六 | やや難 | 【文脈把握】傍線部の「けぢめ」の語義、及び、直後の文脈から判断する。 |
| 問二十七 | 標準 | 【文法問題】「らむ」の識別。傍線部の「らむ」は「り」+「む」。「り」は命令形にも接続するとの説もある。 |
| 問二十八 | 易 | 【記述・口語訳】傍線部の「なむ」は、未然形に接続しているため、願望の終助詞「なむ」。「～てほしい」と訳す。 |

(三) 漢文。出典：『後漢書』。

(本文字数：約 50 字 = 昨年より約 100 字減少。設問数：4 = 昨年より 1 問減少。)

| | | |
|----------|-----|---|
| 問二十九・(1) | 易 | 【文脈把握】直前の「黄巾余党」とのつながりから判断する。 |
| 問二十九・(2) | やや難 | 【空欄補充】空欄を含む部分は「号して白波の賊と為す」と読めば文意が通る。 |
| 問二十九・(3) | 標準 | 【返り点】傍線部の「不能却」に着目するとイかエにしぼれる。あとはイとエを訳して判断する。 |
| 問二十九・(4) | 標準 | 【文脈把握】文脈からでもできるが、「白波」に「盗賊の異称」の意もあることは知っておきたい。 |

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と比べて、現代文・漢文は短くなったが、古文が約1.5倍の長さになった。また、昨年の漢文の独立問題はなくなり、従来の古漢融合の形式に戻った。全体的にみて難易度は昨年並みであった。

大問一は、「写真」をテーマにした評論文。分量は昨年より短くなったものの、内容は易しくはないため、読みづらく感じた受験生が多かったかもしれない。標準レベルの設問をどれだけ解けたかで合否が分かれるであろう。本校では、冬期講習テキスト『早大難関大現代文』の〔一〕などで「写真」についての評論文を扱った。

大問二は、「落語家円朝」について述べた随筆文。読みやすく、随筆に慣れていなくてもそれほど苦戦はしなかったと思われる。設問は、知識問題が多かった。ふだんから語句の意味をコツコツ覚えてきた受験生は、難なく高得点がとれたであろう。

大問三の古文は、『道行きぶり』。本文は比較的読みやすいが、設問のレベルはやや高めであった。とくに、問二十二のC、問二十四、問二十六、を解くにはかなり高度な分析力が必要である。

漢文は、『後漢書』。問二十九の(2)以外は、正解しておきたいレベルの設問である。現役生のなかには受験勉強で漢文まで手が回らないという人がいるだろうが、句形などの基本事項だけでもマスターして、センター試験レベルの漢文はできるようにしておきたい。